第１０９回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目： 教育革新シンポジウム「教養教育における ICT の有効活用」

２．日　時： 平成 26 年 8 月 28 日（木）13:00～17:15

３．３．場　所： 文教スカイホール（グローバル教育・学生支援棟４階）

４．主　催： 教務委員会
　企画： 評価・FD 教育改善専門部会
　実施： ICT 基盤センター・大学教育イノベーションセンター

５．対　象：全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
　[　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの
　[　　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの
　[　○　] (3)　教育の組織的改善に関するもの
　[　　] (4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　] (5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
　今日，大学の授業では，学生の主体的・能動的な学習を引き出すための教授方法がますます求められています。特に，教養教育は学士課程教育を通じた「学習態度の変容」を実現するための基盤であり，本学においてもモジュール科目の授業で，アクティブラーニングの充実がめざされています。
また，他大学では MOOCs（Massive Open Online Courses）に示されるような，授業の大規模な公開，オンデマンド動画の視聴をふまえた反転授業（Flipped Classroom）など，ICT を有効活用した新たな取り組みも行われるようになってきました。
　本シンポジウムでは，今年度より新入生のノートパソコン必携化を開始したことも鑑みて，大学教育における ICT の利活用に着目し，教育工学分野における研究の第一人者である早稲田大学の向後千春氏をお招きしてご講演いただくとともに，３つの大学から先進事例をご報告いただきました。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

13:00～13:10　開会の挨拶　　▶ 長崎大学　副学長　村田　嘉弘
13:10～14:30　基調講演「学修効果を高めるＩＣＴの活用法
～反転授業も含めた授業設計～」
▶ 早稲田大学　人間科学学術院　教授　向後　千春 氏
14:30～14:50　質疑・討論
15:00～15:30　事例報告１
「ＩＣＴによる学修支援の現状と今後
～講義自動収録配信システムの構築を例として～」
▶ 佐賀大学　全学教育機構　教授　堀　良彰 氏
15:30～16:00　事例報告２
「金沢大学における ICT を利活用した教育への取り組み」
▶ 金沢大学　総合メディア基盤センター　助教　森　祥寛 氏
16:00～16:30　事例報告３
「嘉悦大学での挑戦：教・職・学で挑む初年次教育改革」
▶ 嘉悦大学　ビジネス創造学部　准教授　白鳥　成彦 氏
16:30～17:10　質疑・討論
17:10～17:15　閉会の挨拶　　▶ 長崎大学　副学長　村田　嘉弘

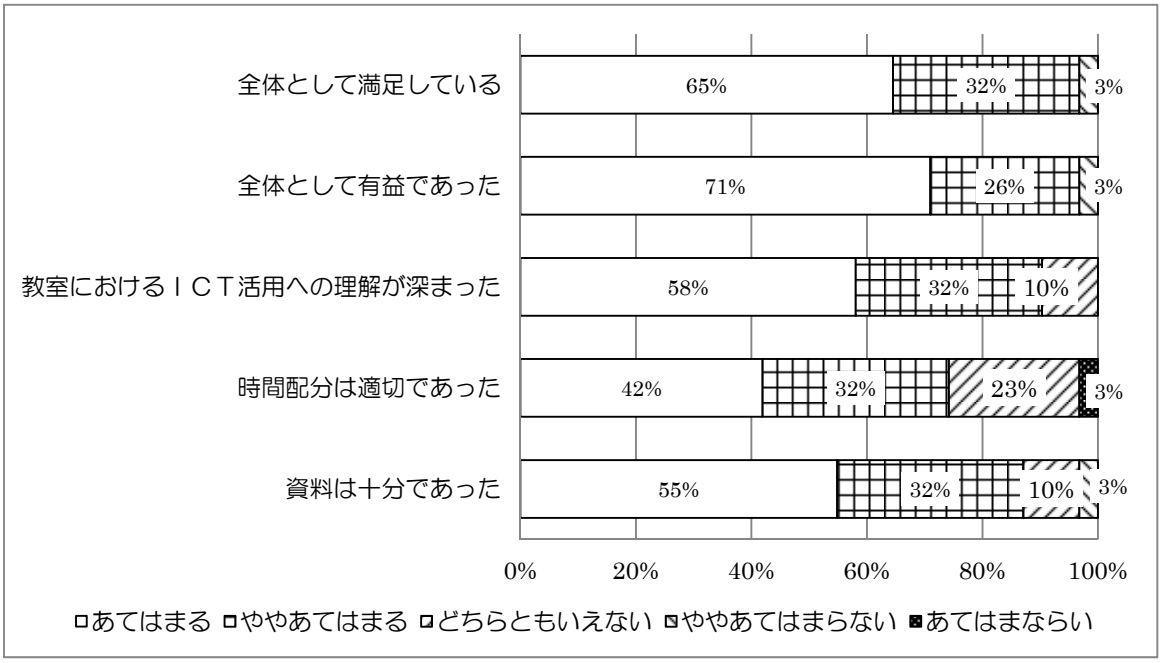
９．参加者：　４８名（受講証発行対象者：４６名（学外者２名を除く））
（内訳）

所　　属	人数
教育学部	4
経済学部	2
医学部医学科　先端医育支援センター	2
医歯薬学総合研究科(医系)	3
医歯薬学総合研究科(保系)	1
医歯薬学総合研究科(歯系)	1
医歯薬学総合研究科(薬系)	1
医歯薬学総合研究科　ハイブリッド医療人養成センター	1
医歯薬学総合研究科　地域包括ケア教育センター	1
工学研究科	6

水産･環境科学総合研究科(環境)	2
水産･環境科学総合研究科(水産)	5
病院	2
産学官連携戦略本部	1
広報戦略本部	1
国際教育リエゾン機構	2
ICT 基盤センター	5
大学教育イノベーションセンター	2
言語教育研究センター	1
学生支援部	1
学術情報部	2
学外者	2
計	48

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



（回答者：３１名）

● 大学教育における ICT の利活用に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

・ システムの話が多かったので、もう少し ICT 利用の授業への応用が聞きたかった。
・ ビデオの良い例、悪い例などの公開があれば良い。
・ 応用ケースをもっと多くのものを知りたいと思うようになりました。
・ ICT 活用の多少に関わらず、授業設計の参考になる内容が多くあり、参考になりました。予習の指示、グループ分けの方法、授業内容の切り分け等。
・ ICT を活用した「予習」や「復習」が義務化されると、学生の負担が大きくなり過ぎないか心配である。教養教育では大丈夫かもしれないが、学校教育では問題となりそうである。医学部では国家試験勉強に充てる時間も必要である。空き時間なく講義がみっちり詰め込まれたカリキュラムでは難しいのではないだろうか？
・ 「教員」向けというよりも、教育や ICT システムを作る人向けの内容が多かったような気がします。特に事例報告は。
・ 他大学の事例を聞くと、主体的学習にしても ICT 導入にしても長崎大学は全く明確なビジョンに基づく計画に従ってすすめられてないという事がよく分ります。金沢大の事例でも紹介されていたように、なぜ導入するのかのビジョンを共有することなく教員へ押し付けても全く失敗すると思います。PC 必携パソコンの選定や ICT の授業への導入､ポータルの統合の考え方については金沢大学の例が大変参考になり、ならうのがよいと思います。
・ 金沢大学のような取り組みが望ましい。
・ 金沢大学でのアンケート調査をよくみてみる必要がありそうですね。
・ すべての教員が教育に ICT を使用する必要もないと思いました。
・ 良い所だけでなく悪い所も知りたい。
・ スマホを含めた利用にも対応できるようにしなければならない｡スマホと PC が別物になっては ICT 利用は進まない。その点から考えるとマイクロソフトは弱すぎる。アップルやグーグルのシステムの方がはるかに進んでいると思いますが､､､facebook ツイッターの会員登録などの作法（限定公開など）と利用も視野にいれるべき。
・ 大学教育を取り巻く、ICT の活用を理解できた。それぞれの大学に特色があり、エネルギーのかけしだいで何でもできると思った。
・ 長崎大学にも著作権対応部署が必要。
・ ICT 導入時の学生向けインストラクションの方法、コンテンツを学べると尚良かったです。LACS 以外のシステムを使うことがあり、特に地域の実践家向けの e-learning コンテンツの整備をしているからです。
・ 急速に進化しているので、この様な機会は増やして頂きたい。
・ さらなる無線 LAN 環境の向上、全教室へのオーバーヘッドカメラの設置が必要でし

ょう。

- 自分の座学系授業に取り入れていくアイディアが得られたように思います。
- 今後も出席管理システム運用など意見交換をお願いします。
- 教育者が情報化のパラダイムシフトをきちんと理解することの必要性を感じました。
- 今の教員は「情報」について講義をうけたこともなく、「教授法」についての講義をうけたこともなく、大変勉強になりました。専門教育でどのように今後とりくまれていくのかなと思いました。理系科目（学部）であれば１５回ひとりが講義をするということも少ないですし。遅れているＡランク大学から転職してきて、またＷ大学の非常勤をしていて、各大学各々ちがっていてそれに対応するのに必死な状況です。とてもいろいろ勉強になりました。
- ICT を活用したいが、大学でリソースを集めて共同利用できるようにしてほしいです。

● 今回のシンポジウムの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

- 新しい授業の構築のアイディアが湧いてきました。
- わかりやすかった。（ICT については自信はありませんが）色々なアイディアをもらった。
- 金沢大学、嘉悦大学の公演は３０分では時間不足であった。１時間程度は必要であった。もっと聞きたい講演であった。
- 会場が寒かったです。
- 時間が長いです。ただいろいろな分野の考え方が聞けたのは良かったです。
- それぞれ発表者のみなさんおもしろかった。すばらしい人選です。
- １～３日ぐらいの集中セミナーで ICT ベースのインストラクショナル・デザイン、評価についてもう少し詳しく全体の概用を学びたいです。＋αで研究領域や学会、教育機関（院等）の紹介があれば、自分でスキルを身につけ易いのと他に紹介できます。
- 講師が時間に沿って発表されて良かった。
- 貴重な興味ある情報を得ることができました。ありがとうございました。
- 良かった。
- 学外への公開（参加者募集など）もよいのではないでしょうか。
- いろいろな大学の事例が聞けてよかったです。いろいろな大学の先生がいてのワークショップも楽しそうでいいですが。

（２） 総　括

１件の基調講演と３件の事例報告により構成された。全て、学外講師によるものであり、基調講演は 80 分、事例報告はそれぞれ 30 分で行われた。基調講演以外ではハンドアウト資料が配布された。題目は「教育革新シンポジウム『教養教育における ICT の有効活用』」であったが、教養教育のみならず専門教育においても有用な ICT を活用した教育についての講演であった。質疑応答では著作権の問題や具体的な e-learning 教材作成ソフトの話が出た。参加者からの評価では時間配分に関する評価が比較的低かった。事例報告は焦点を絞って、2 件でも良かったのかもしれない。また、e-learning 教材に関しては自主作成の話が中心であったが、既に世の中に出回っている優良サイトの紹介や検索法などの話も聞きたかった。全体としては ICT 活用教育の有用性の話であり、そこへ踏み出す勇気をもらい、背中を押してもらった気分でいる。

（文責：安武　亨）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077